公益社団法人
日本介護福祉士会
ニュース

Vol.155
1月1日号
2020年

The Japan Association of Certified Care Workers

謹んで新春のお慶びを申し上げます

公益社団法人日本介護福祉士会　会長　石本　淳也

会員の皆様におかれましては、平素より公益社団法人日本介護福祉士会の事業推進に際し、多大なるご支援とご協力を賜り誠に有難うございます。また、都道府県介護福祉士会の活動や、介護現場、教育現場などにおいて、日々ご尽力されておられますことに心より敬意を表します。

また、昨年の広域且つ甚大な台風被害により、被災された全ての皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、被災地の支援活動にご協力いただきました全ての皆様に敬意の念を表します。

昨年は、平成から令和へと時代が変わりました。平成の世と共に歩んできた「介護福祉士」も30年という節目を迎え、新たな時代にマッチした在り方が求められているといえるでしょう。少子高齢化の進展に伴い労働力の制約が強まる中、地域における介護福祉ニーズは多様化・複雑化してきています。有資格者等によるフォーマルサービスのみの支援では限界があり、地域住民を巻き込んだインフォーマル支援も機能させながら、共に支え合う共生社会の実現が求められています。

介護福祉士は、生活支援の専門職として、また介護職チームのリーダーとして、多様な人材をマネジメントしながら、質の高い介護福祉サービスを担保する責任があります。高度な介護技術を有する実践者としてのスキルはもちろんのこと、それらを指導・伝達する指導者としてのスキル、サービスの質の管理やチームメンバーをフォローするスキル、多職種連携といったマネジメントスキルなど、新時代に求められる姿は地域社会にとって不可欠な存在であり、共生社会の実現において果たす役割は大きいものであります。これらを踏まえて、日本介護福祉士会としては厚労省補助事業（平成29年度・平成30年度）「中核的な役割を担う介護福祉士の資質向上研修モデル事業」において、事業者団体などの協力も得ながら、2本の研修プログラムを組み立てました。既に行われているファーストステップ研修等の生涯研修とともに、全国においてこれらの研修を展開し、質の高い介護福祉士の養成と認定介護福祉士への道筋をより一層進めて参ります。

また、頻発する自然災害において、被災者の介護福祉ニーズへの対応の必要性も高まっています。初期の災害支援時に介護福祉士等が避難所に入ることの必要性を、他の福祉専門職団体と共に国などに訴えたところです。日常から非日常まで、幅広いフィールドでその活躍が期待されており、その信任に応えることが介護福祉士の価値を高めることと確信しております。今後も、時代のニーズに合わせた事業推進に取り組んで参ります。

本年が、皆様にとって輝かしく安寧な1年となりますよう、心から祈念申し上げます。